

# 小泉八雲の『心』から 夏目漱石の『心』へ

小泉八雲の『心』と夏目漱石の『心』は、それぞれ、日本近代文学の最高傑作だが、一見したところでは無関係に見える。しかし、本当にそうであろうか。

八雲と漱石は東京帝国大学の英文学講師で、前任者・後任者の関係にあった。その講義が東大の学生たちに高く評価された八雲が解雇され、漱石が八雲の代わりに就任したことが、『三四郎』の広田先生をめぐる学生運動にも反映されている。漱石は熊本の五校で英文学を教えていた時代から、八雲の存在を深く意識していた。

では一体どういう形で「八雲」が夏目漱石の文学に現れているだろうか。外国人の目をとおして、日本人の外の様子を観察し、日本人の『心』をつかもうとする八雲の『心』は明治29年(1896年)に発表された。そして、大正3年(1914年)、1人の日本人の閉ざされた内面の苦悩を追求する夏目漱石の『心』が発表される。その間の18年間、日本では何が起きていたのか。

この講演で、斬新な「小泉・漱石論」を展開する！

講師：

作家・評論家

**Damian Flanagan**  
(ダミアン・フラナガン)

講師紹介：文学博士。著書に『日本人が知らない夏目漱石』、『世界文学のスーパースター夏目漱石』、『Yukio Mishima』、『The Tower of London』(日米友好基金日本文学翻訳賞)などがある。広い分野に渡って、アイルランド、英国、日本の新聞にコラムを書いている。

日時：2018年10月26日(金) 18:00~19:30

会場：東北学院大学 土樋キャンパス  
ホーイ記念館 地下1階 ホール

申込不要  
受講料無料